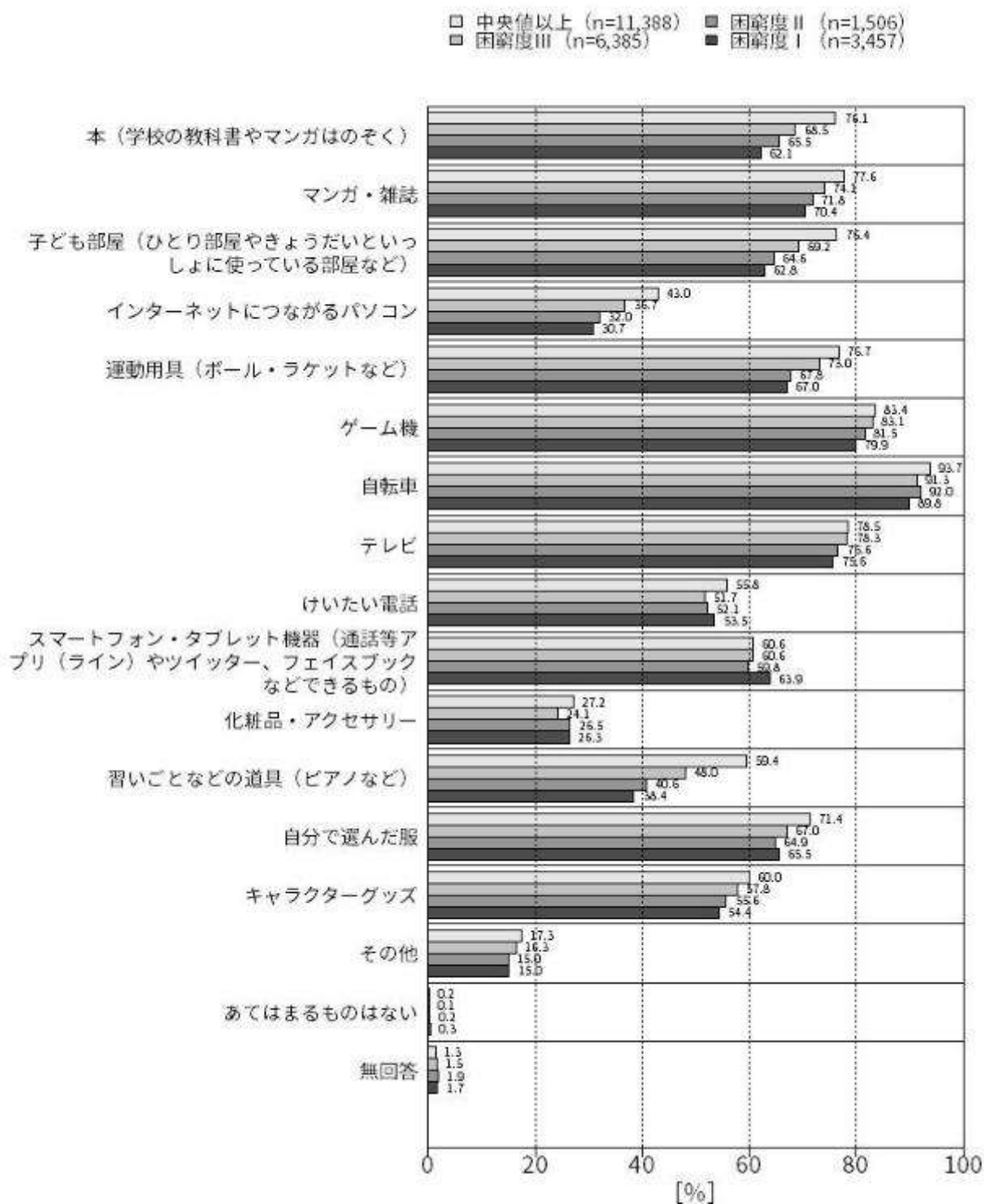


困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの（子ども票 問 25）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

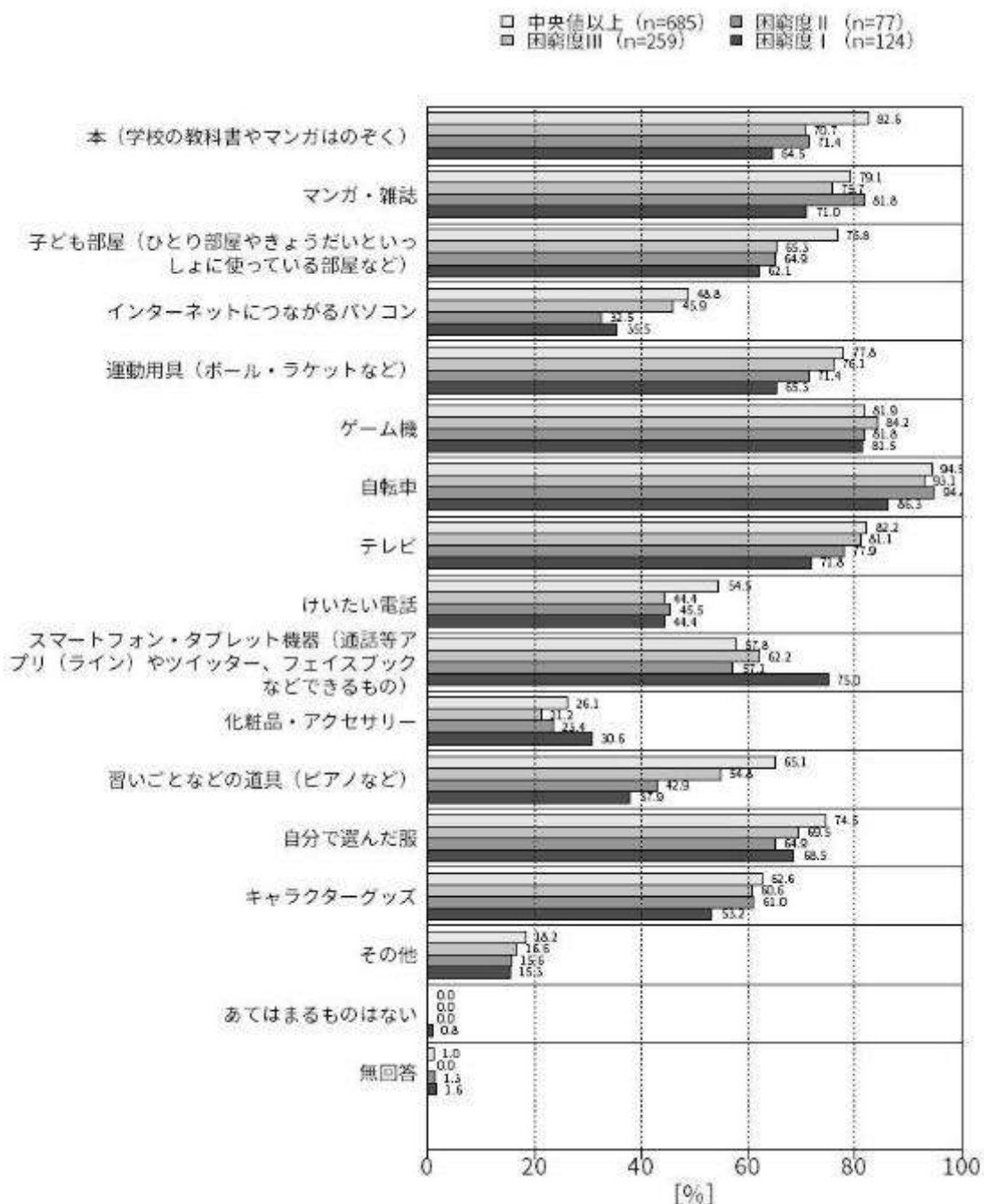
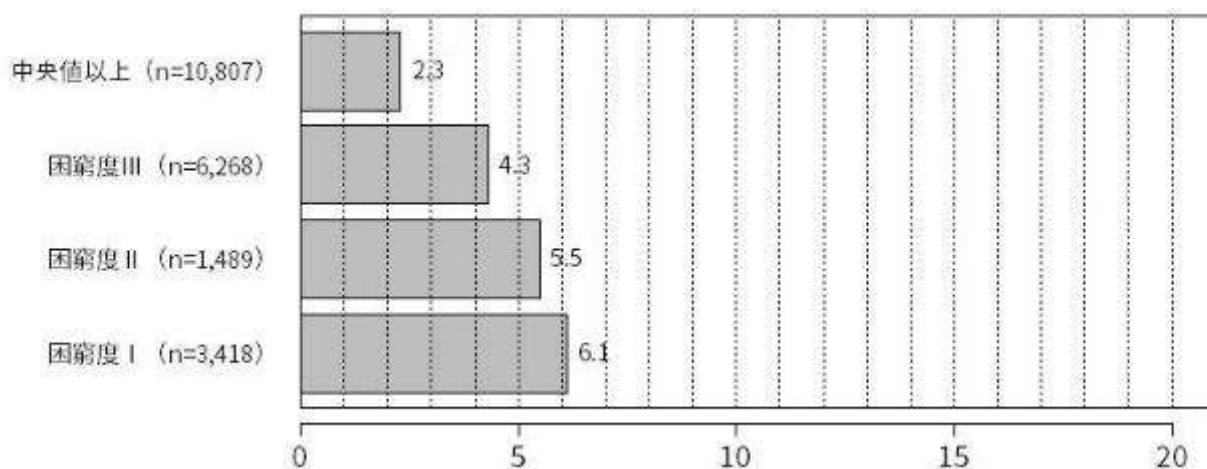


図 111. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの

困窮度別に子どもの持っているもの、使うことができるものを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「習いごとなどの道具（ピアノなど）」は37.9%（中央値以上群に対して、0.6倍）、「インターネットにつながるパソコン」は35.5%（0.7倍）、「本（学校の教科書やマンガはのぞく）」は64.5%（0.8倍）となり、困窮度Ⅰ群において低い項目が複数みられた。

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

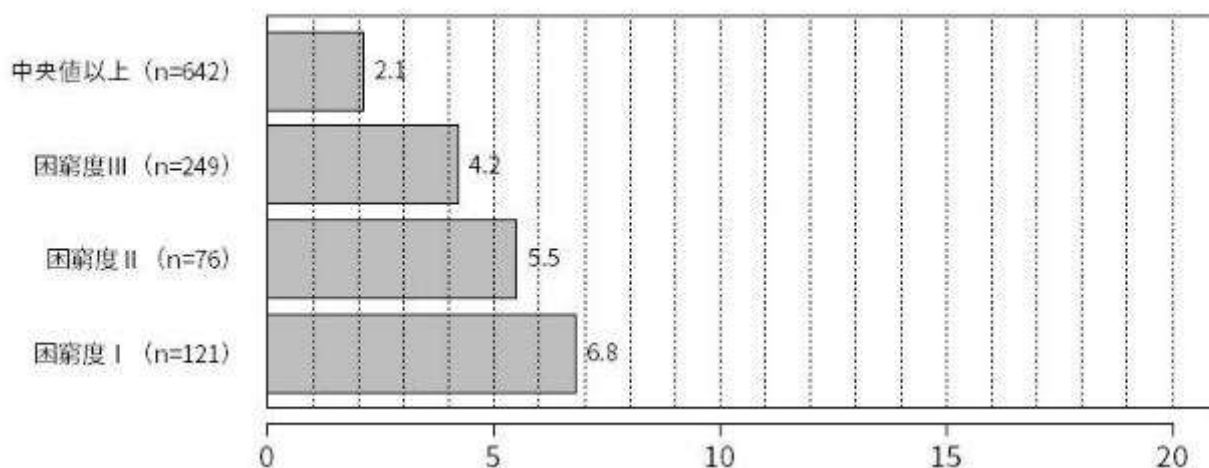


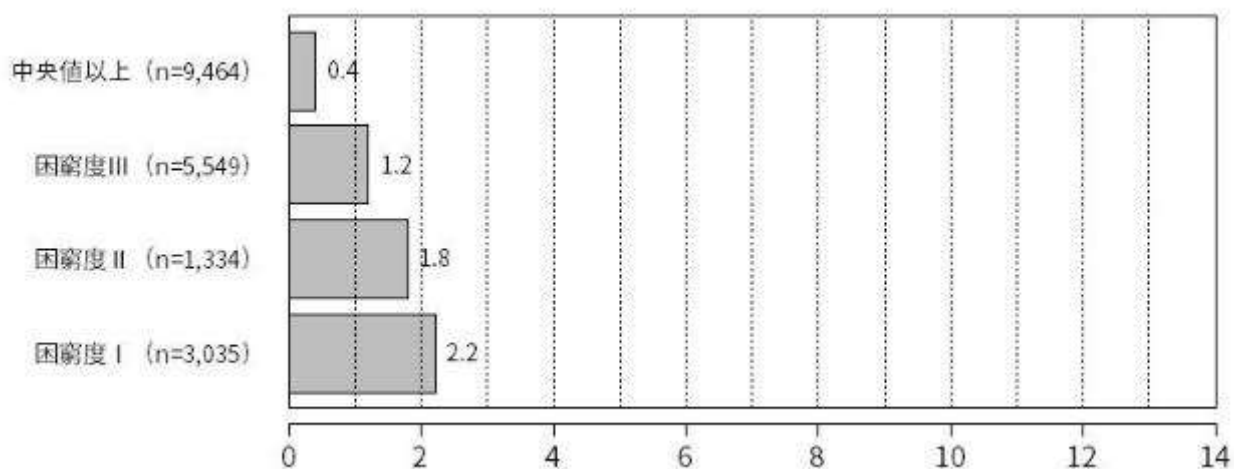
図 112. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験として示した 21 個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由による経験の該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度と経済的な理由による経験の該当数についてさらに詳細に検討した結果、該当なし（どれにもあてはまらない）、1～6 個に該当、7 個以上に該当、の 3 群に分けることができた。図 193 および図 195 では、これらの結果と体や気持ちで気になることとの関連を示している。これは、最低限度の生活に必要なものの 1 つである健康を、所得を基に計算される困窮度だけでなく、具体的な充足の程度と関連して把握するためである。

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

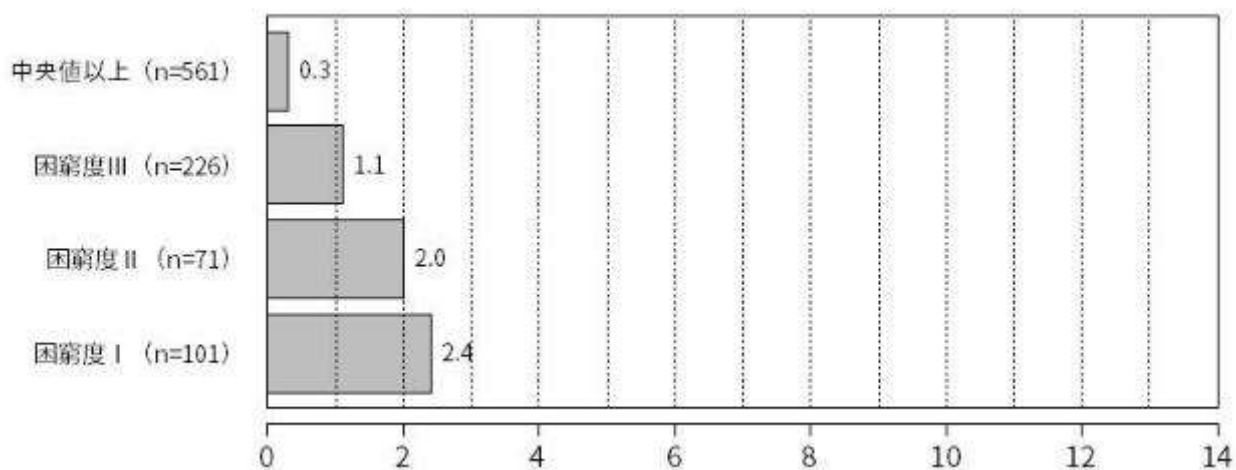


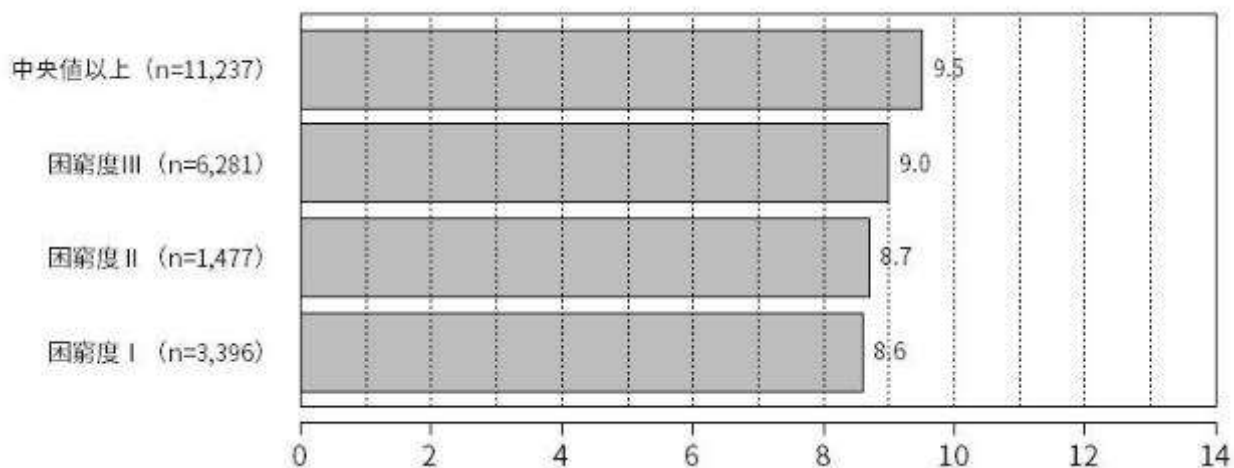
図 113. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもに関して経済的な理由による経験として示した 14 個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、中央値以上群では 0.3 個、困窮度Ⅰ群では 2.4 個と経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数に違いがある様子がみられた。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均
(子ども票 問 25)

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

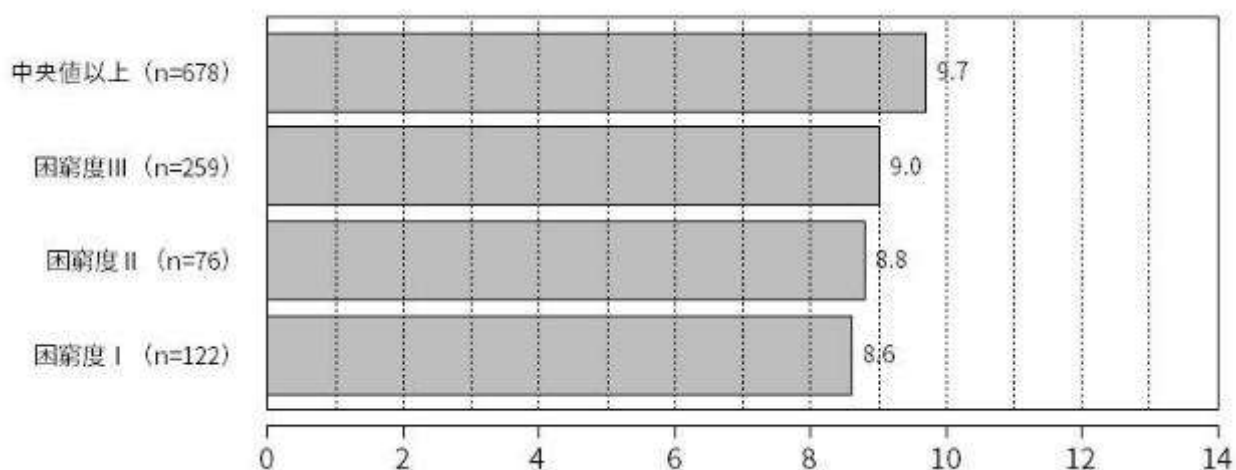


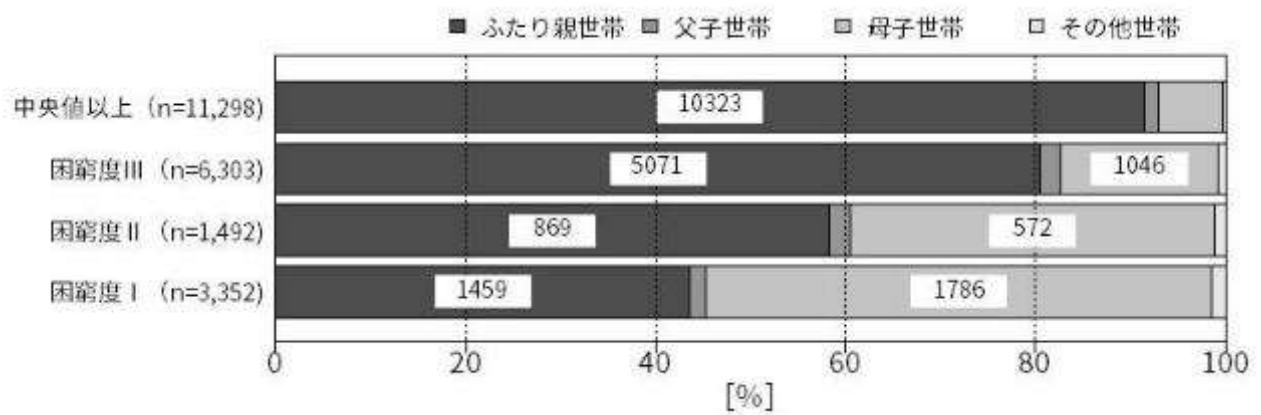
図 114. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるものとして示した 14 個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、中央値以上群では 9.7 個、困窮度Ⅰ群では 8.6 個であった。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票 世帯構成）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

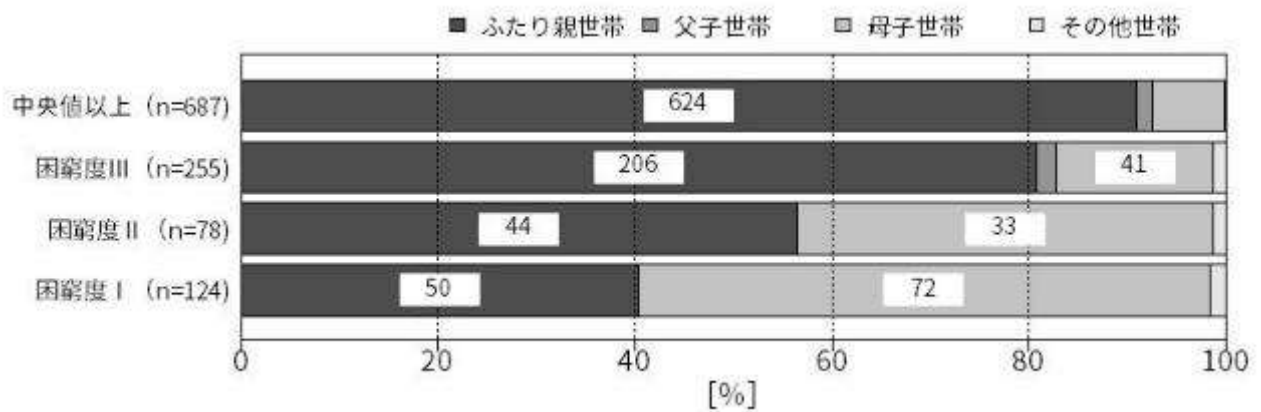
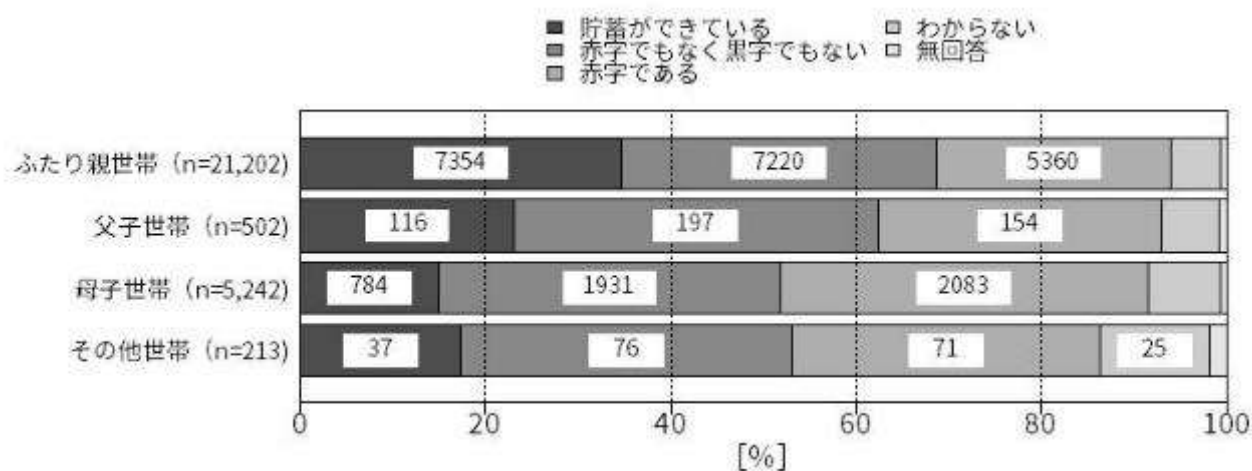


図 115. 困窮度別に見た、世帯員の構成

困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答したのは、中央値以上群が 90.8%であったのに対して、困窮度Ⅰ群は 40.3%だった。また、「母子世帯」と回答したのは、中央値以上群が 7.3%であったのに対して、困窮度Ⅰ群は 58.1%だった。

世帯構成別に見た、家計状況（保護者票 問6(1)）

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

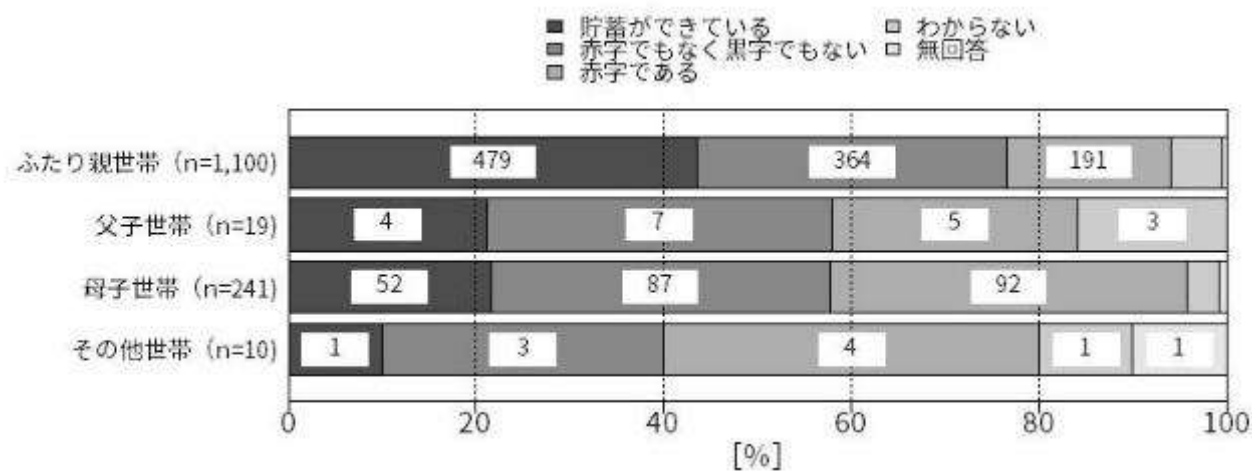
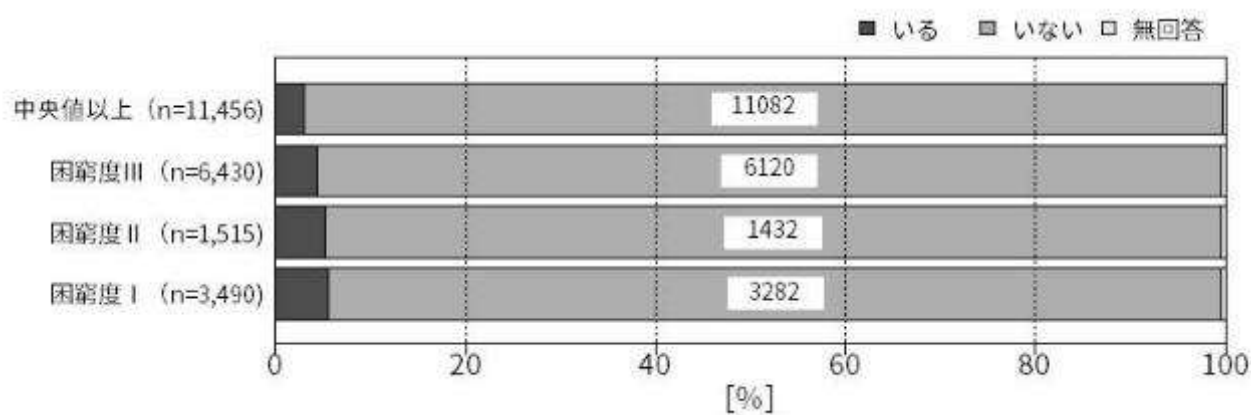


図 116. 世帯構成別に見た、家計状況

世帯構成別に家計状況を見ると、「貯蓄ができている」と回答したのは、ふたり親世帯が43.5%なのに対して、母子世帯は21.6%だった。また、「赤字である」と回答したのは、ふたり親世帯が17.4%なのに対して、母子世帯は38.2%だった。

困窮度別に見た、介護または介助の必要な方（保護者票 問3(1)②)

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

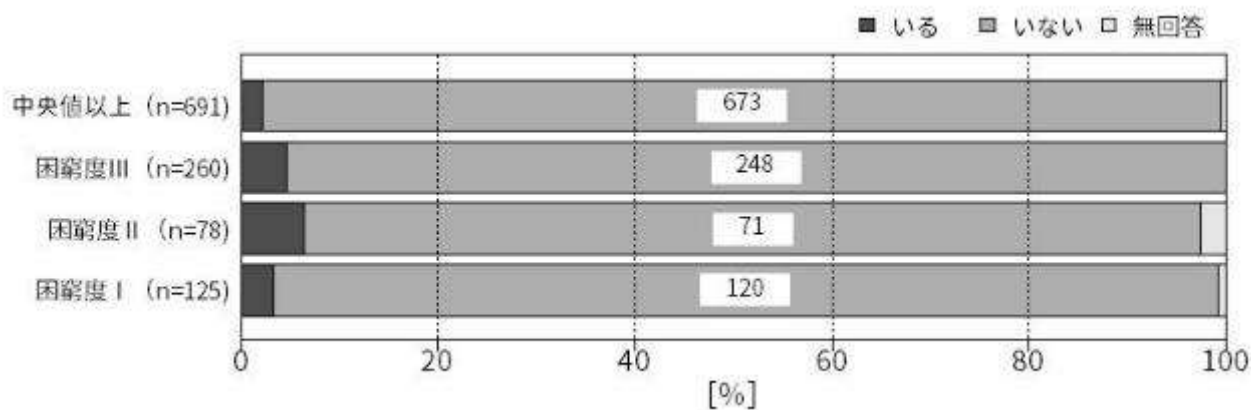
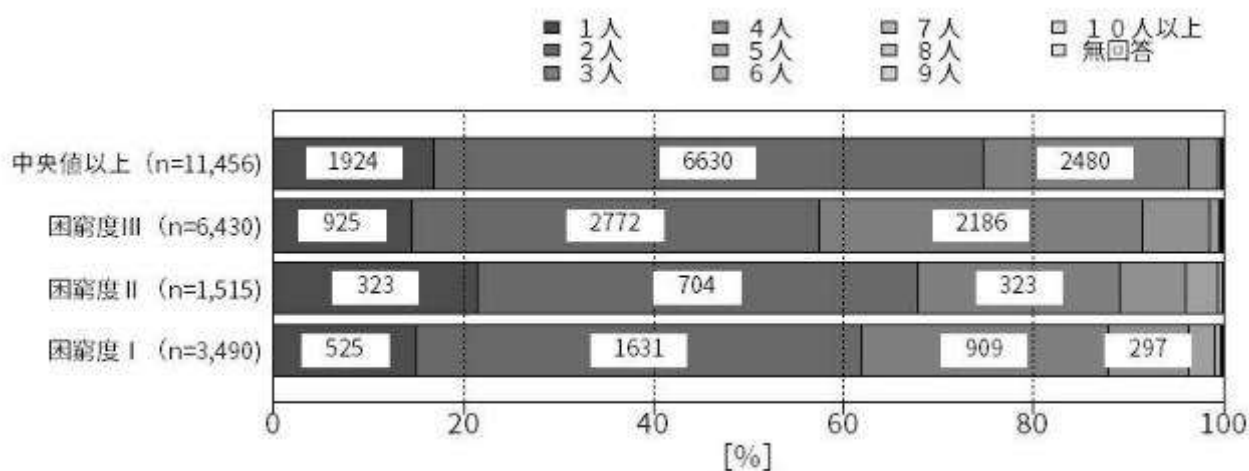


図 117. 困窮度別に見た、介護または介助の必要な方

困窮度別に介護または介助の必要な方を見ると、中央値以上群では「いる」と回答した割合が2.2%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では3.2%であった。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票 問 3(1)③）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

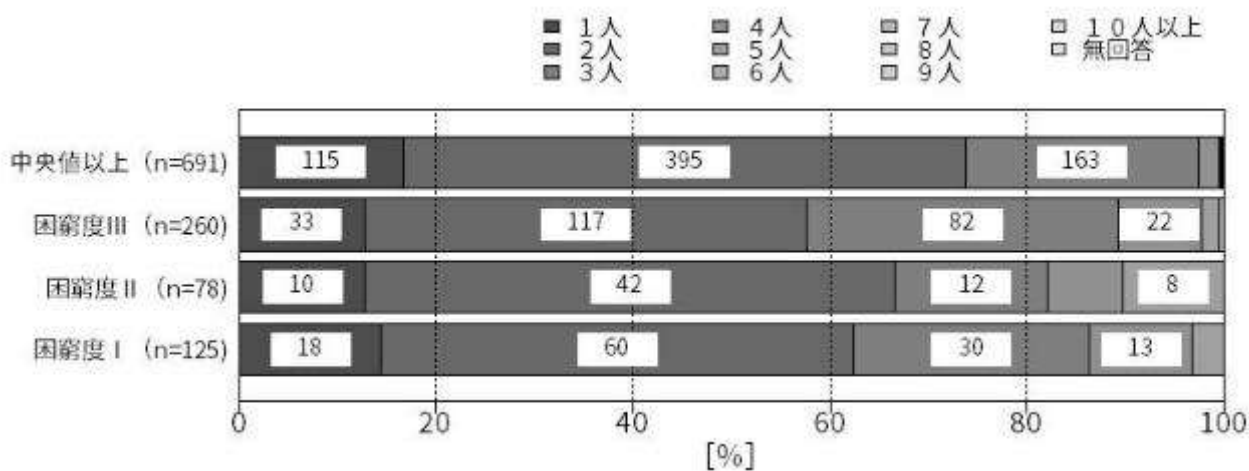
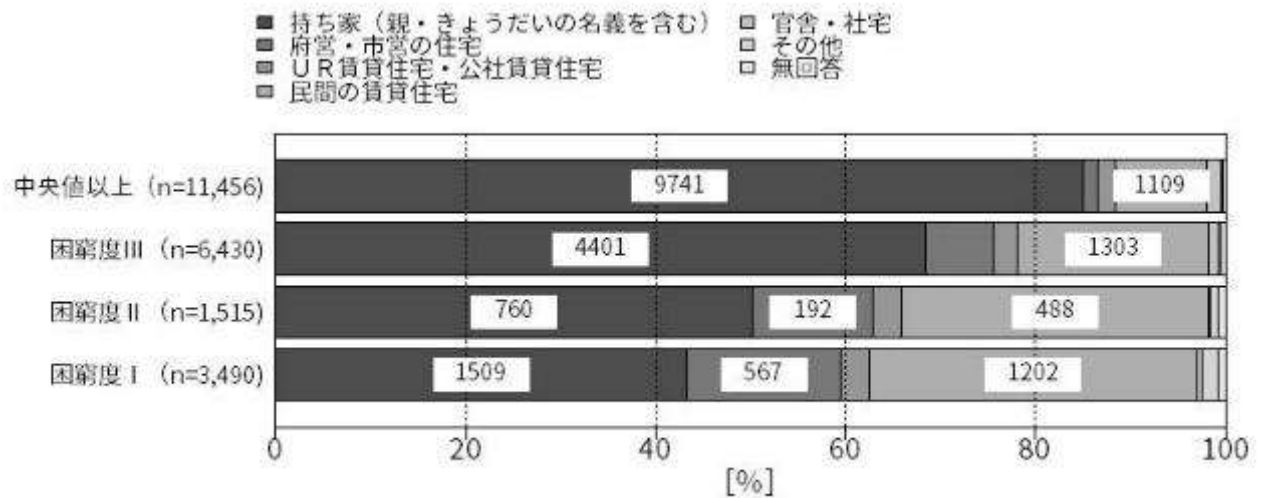


図 118. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において3人以上が26.0%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では、37.6%であった。

困窮度別に見た、住居（保護者票 問 4）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

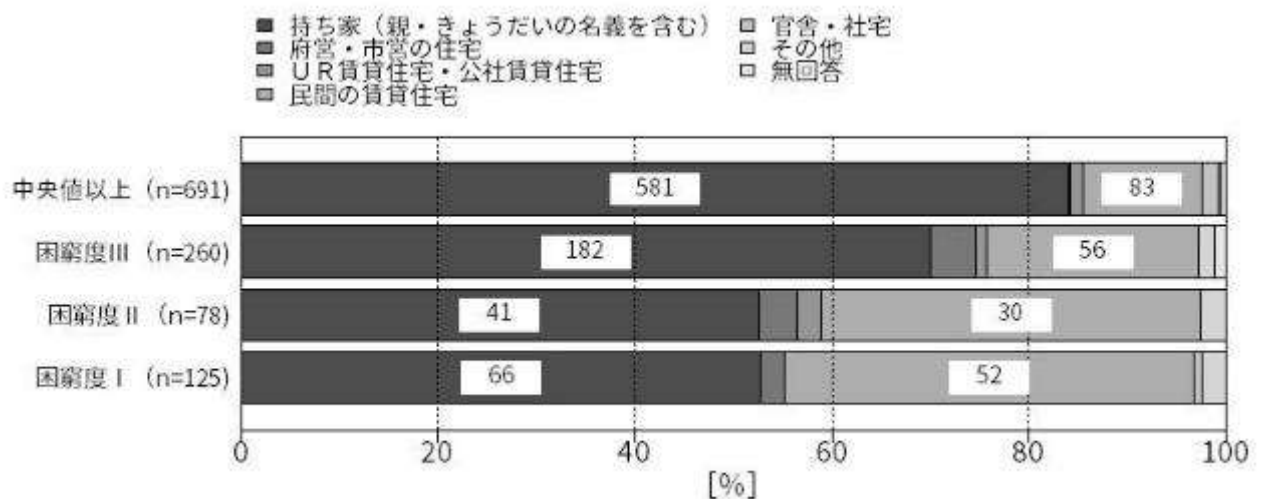
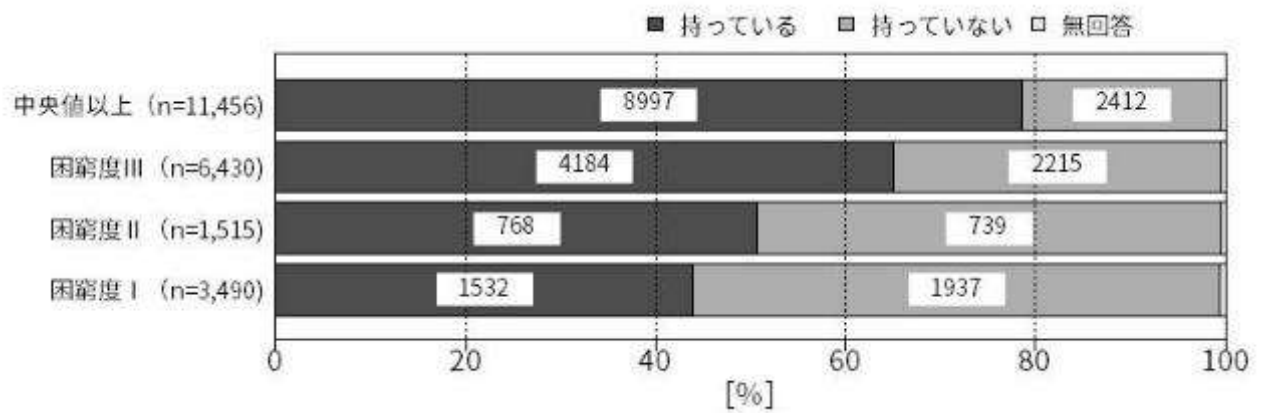


図 119. 困窮度別に見た、住居

困窮度別に住居を見ると、「持ち家」と回答した割合は 84.1%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では、52.8%であった。

困窮度別に見た、自家用車の所有（保護者票 問 5）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

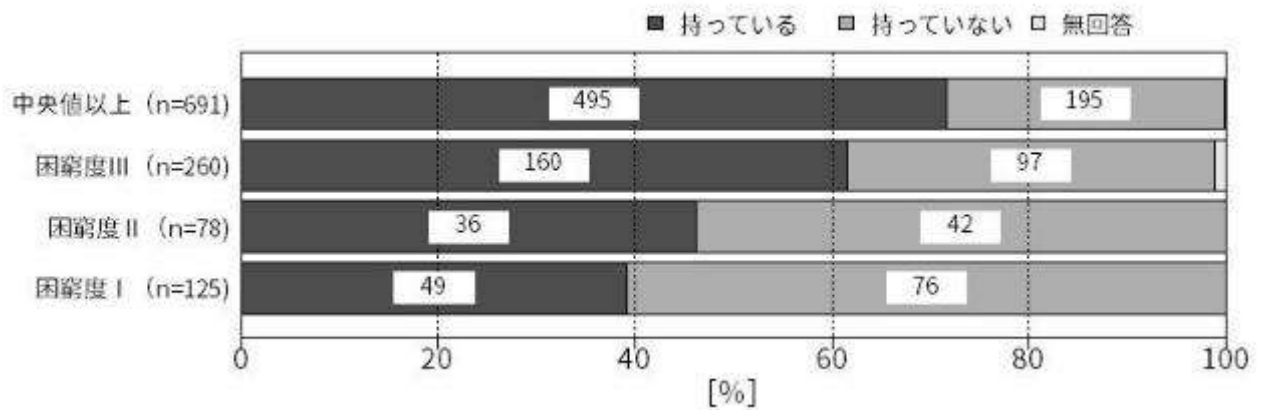
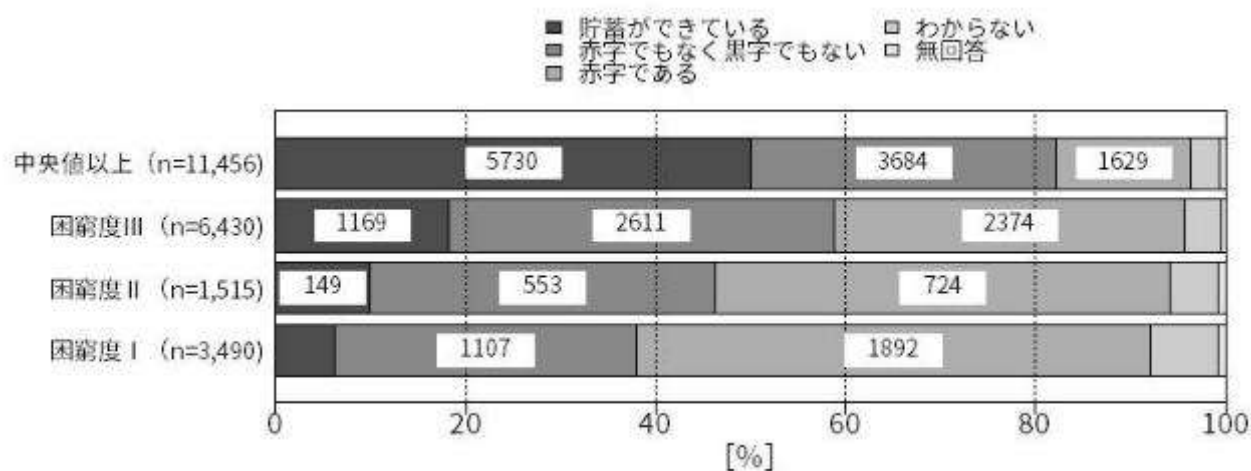


図 120. 困窮度別に見た、自家用車の所有

困窮度別に自家用車の所有を見ると、中央値以上群では、車を所有している世帯が 71.6%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では 39.2%であった。

困窮度別に見た、家計状況（保護者票 問6(1)）

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

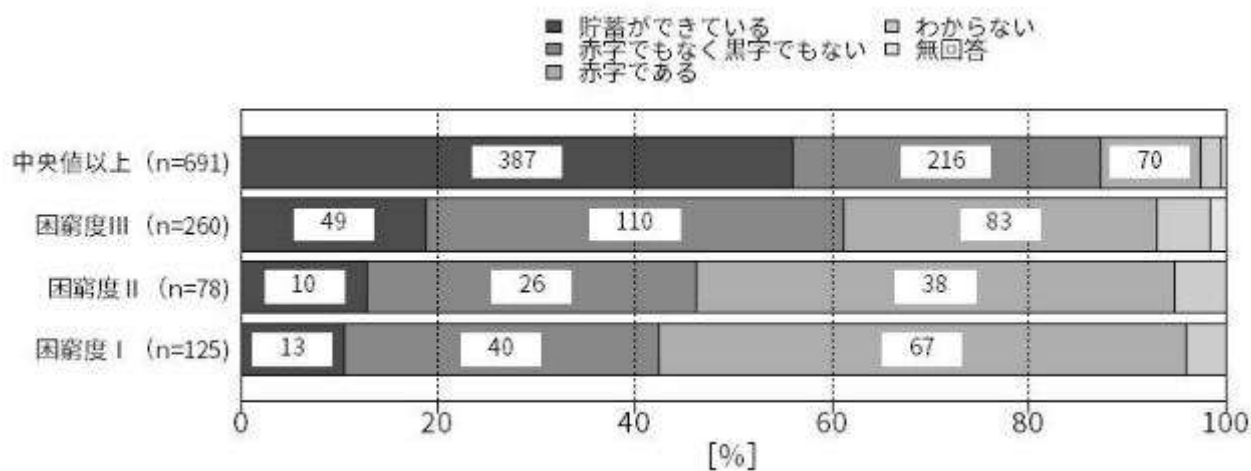
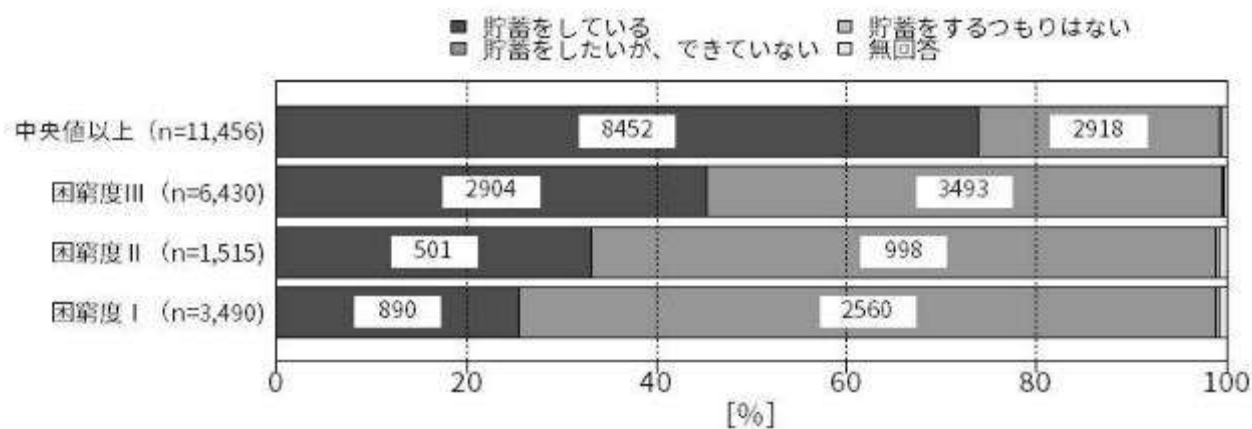


図 121. 困窮度別に見た、家計状況

困窮度別に家計の状況を見ると、中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、10.1%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では、53.6%となり、5割強を占めた。

困窮度別に見た、子どものための貯蓄（保護者票 問 6(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

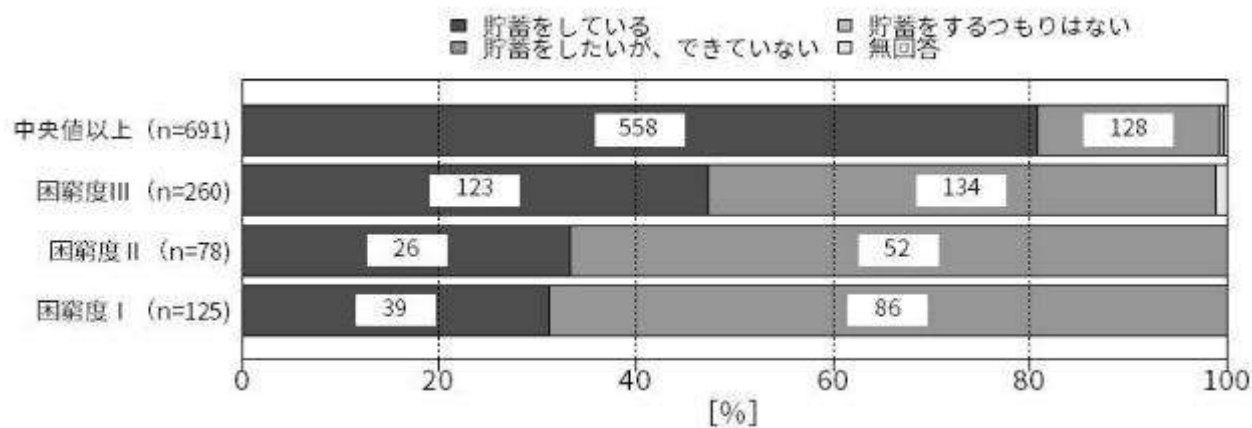
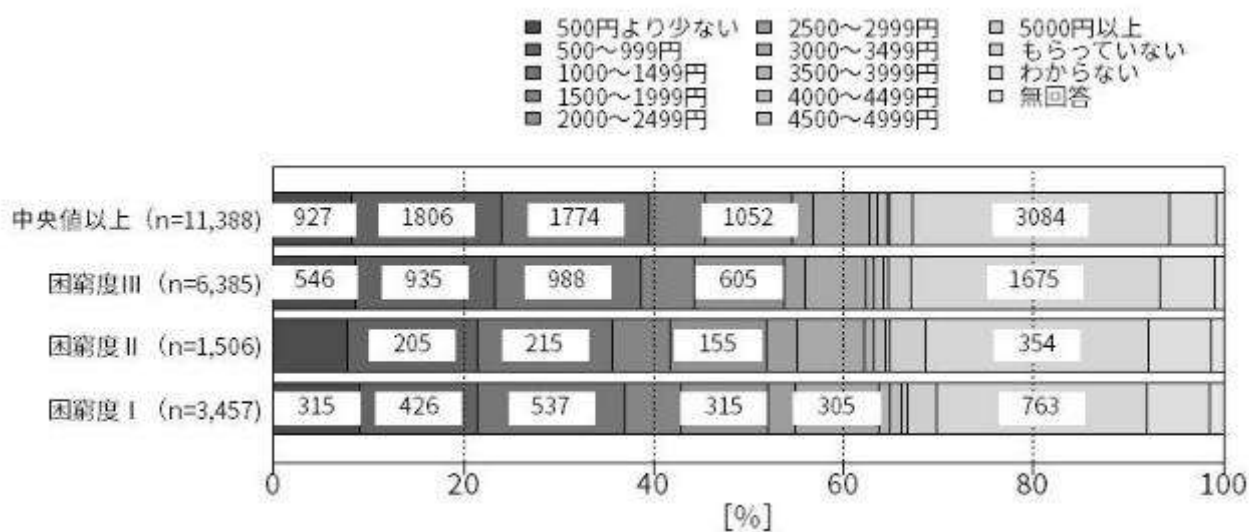


図 122. 困窮度別に見た、子どものための貯蓄

困窮度別に子どものための貯蓄を見ると、中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が 80.8%であったが、困窮度Ⅰ群では 31.2%であり、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答する割合が 68.8%であった。

困窮度別に見た、おこづかいの金額分布（子ども票 問 20(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

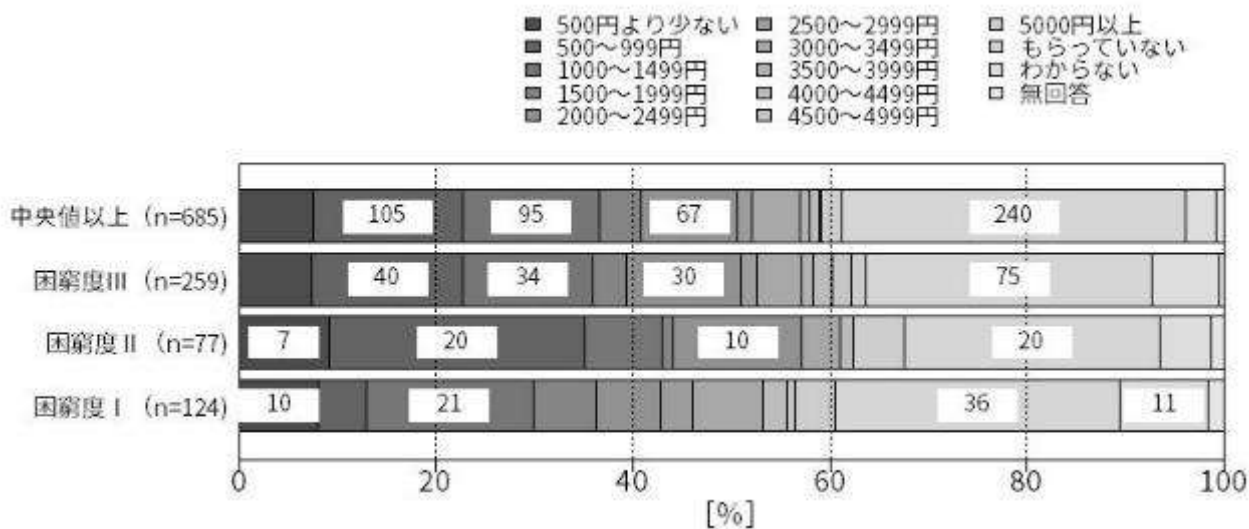
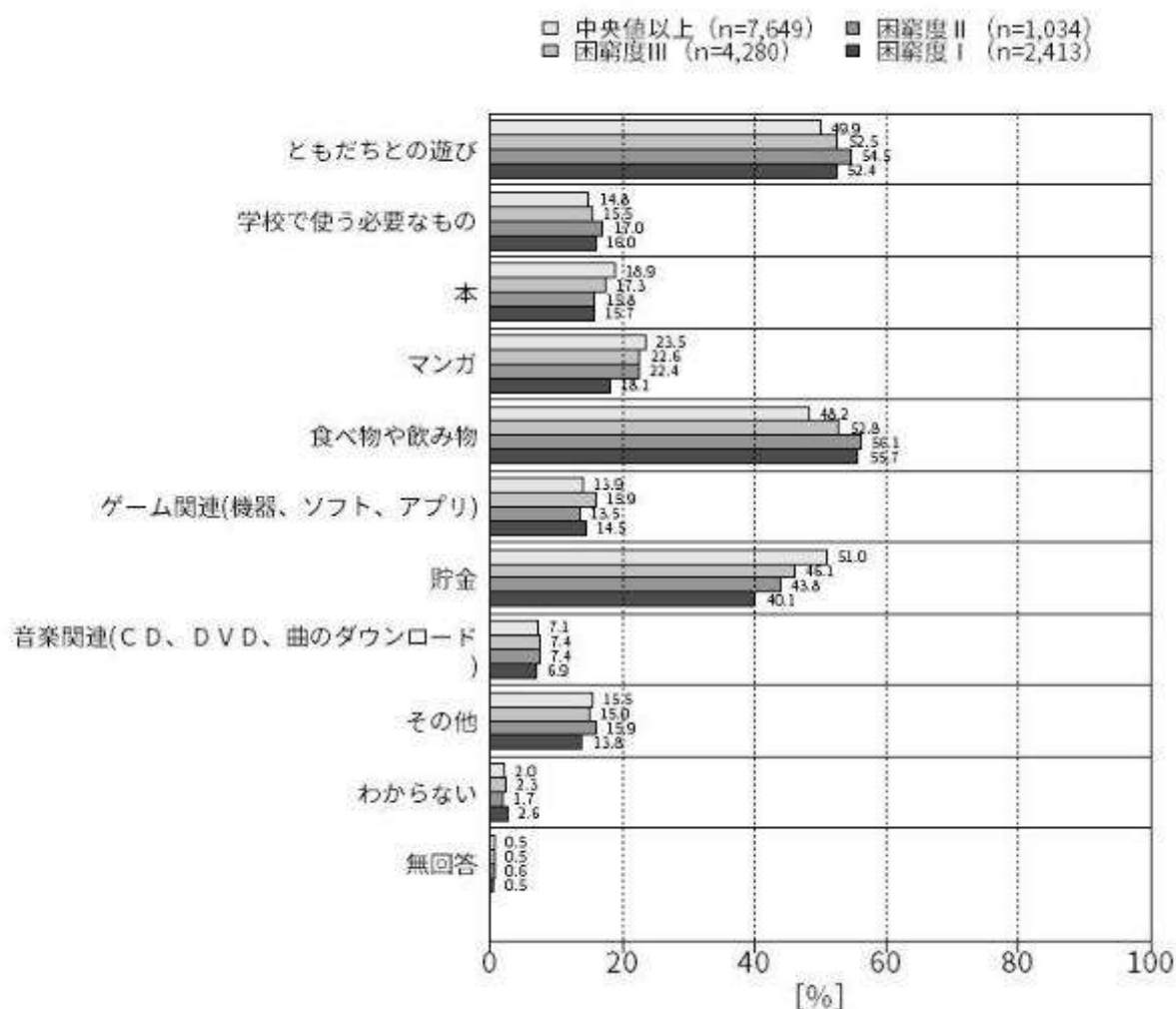


図 123. 困窮度別に見た、おこづかいの金額分布

困窮度別におこづかいの金額分布を見ると、困窮度による大きな違いは見られない。おこづかいをもらっているが、その用途や必要な物は親に購入してもらっているか、など詳細をみる必要がある。

困窮度別に見た、おこづかいの使い方（子ども票 問 20(3)）

<大阪市 24 区>



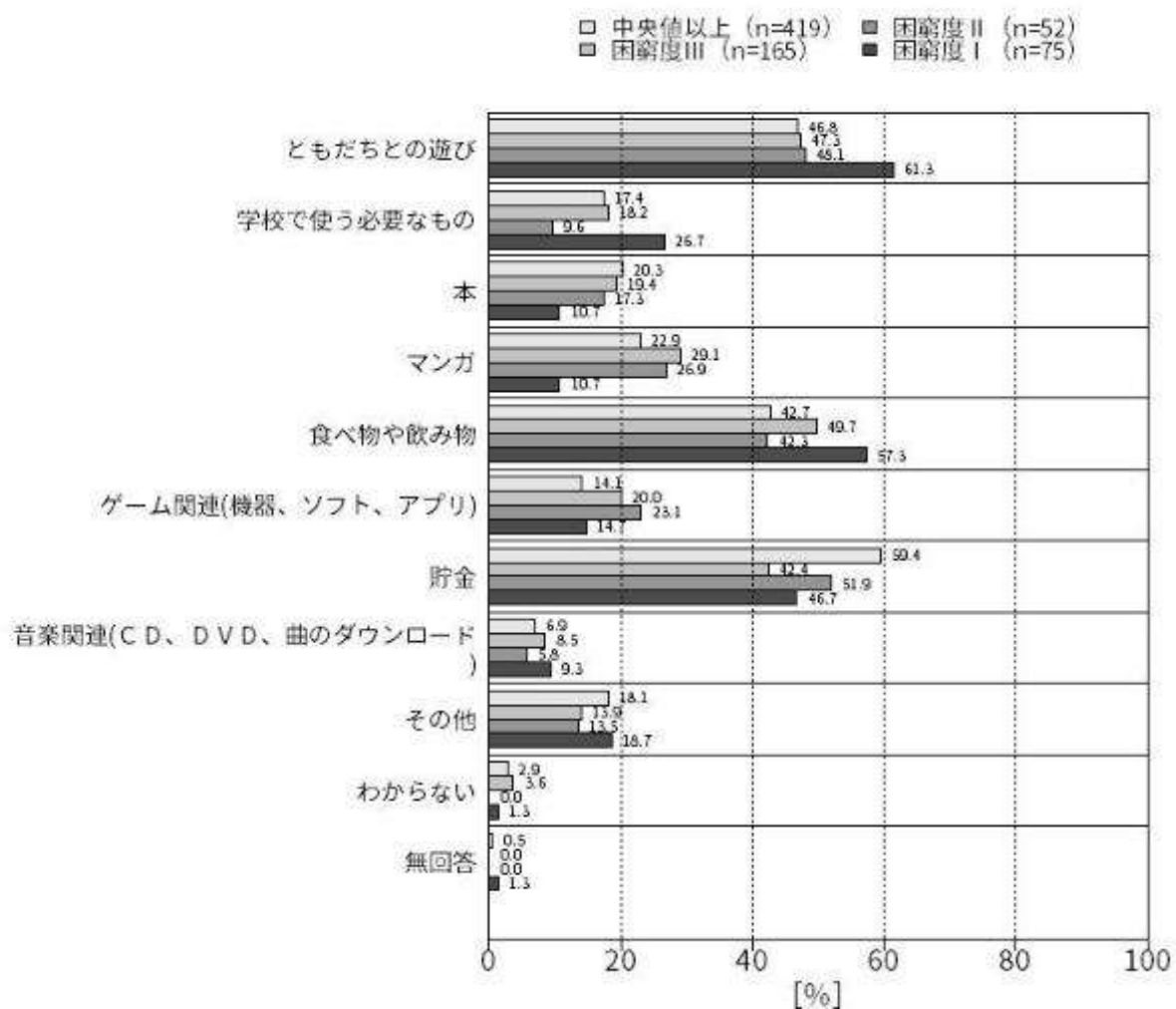


図 124. 困窮度別に見た、おこづかいの使い方

困窮度別におこづかいの使い方を見ると、「貯金」が中央値以上群 59.4%であったのに対して、困窮度Ⅱ群では 51.9%、困窮度Ⅰ群では 46.7%であった。

<経済状況に関する考察>

困窮度が深刻化すればするほど、生活面での困難は増す傾向が見られた。困窮度Ⅰの群において「電気・ガス・水道などが止められた」世帯は6.4%、「医療機関を受診できなかった」世帯は5.6%であった。しかし、中央値以上の群では、0.6%と0.1%の世帯のみにとどまっており、生活面での格差を確認することができる。そのほかにも、中央値以上の群が1%未満であるのに対して、困窮度Ⅰの群の割合が高かった項目として、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」、「敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した」がともに11.2%、「電話などの通信料の支払いが滞ったことがある」18.4%、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」22.4%、「国民年金の支払いが滞ったことがある」26.4%などが挙げられる。

「どれにもあてはまらない」とこの項目で回答は、中央値以上の群では40.8%であった一方で、困窮度Ⅰの群では5.6%であった。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響している。「生活の見通しがたなくて不安になったことがある」という回答は、中央値以上の群が5.9%であったのに、困窮度Ⅰの群では48.0%となっている。

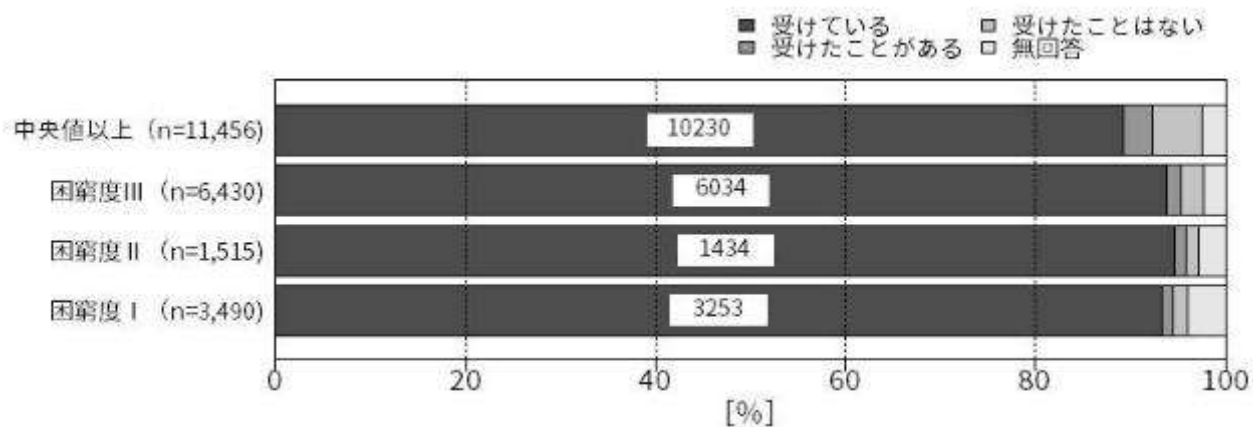
世帯の経済状況は、子どもの生活にも影響を与えていることが確認できる。たとえば、困窮度Ⅰの群では、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」という回答が1.6%であったのに対して、中央値以上ではそのような経験があると回答する世帯は0.1%にとどまった。同様に、「子どもの進路を変更した」世帯は、困窮度Ⅰの群で6.4%であったのに対し、中央値以上の群では、1.3%であった。他にも、「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」世帯は、中央値以上の群では2.0%であったのに対し、困窮度Ⅰの群では23.2%であった。子どもを取り巻く状況の格差が示されていると言える。

調査では、世帯所得の差が学習面での機会の差となって現れることが示されている。「子どもを習い事に通わすことができなかった」が、中央値以上の群で3.6%に対して困窮度Ⅰの群では28.0%、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」が中央値以上の群で3.0%に対して、困窮度Ⅰの群では25.6%と、顕著な差が見られている。学習機会の格差は、子どもの将来に影響を与えることが予想される。このほか、学校外での子どもの多様な「体験」の有無も、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験に格差があることが示された。たとえば、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」という回答は、中央値以上の群で8.1%に対して、困窮度Ⅰの群では40.0%であった。その一方、「どれにも当てはまらない」が、中央値以上の群では68.6%に達している。子どもに対して困難なく資源や機会が提供できている世帯も多数いるという点にも留意する必要があるだろう。

(2) 家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、児童手当（保護者票 問 30(3)①）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

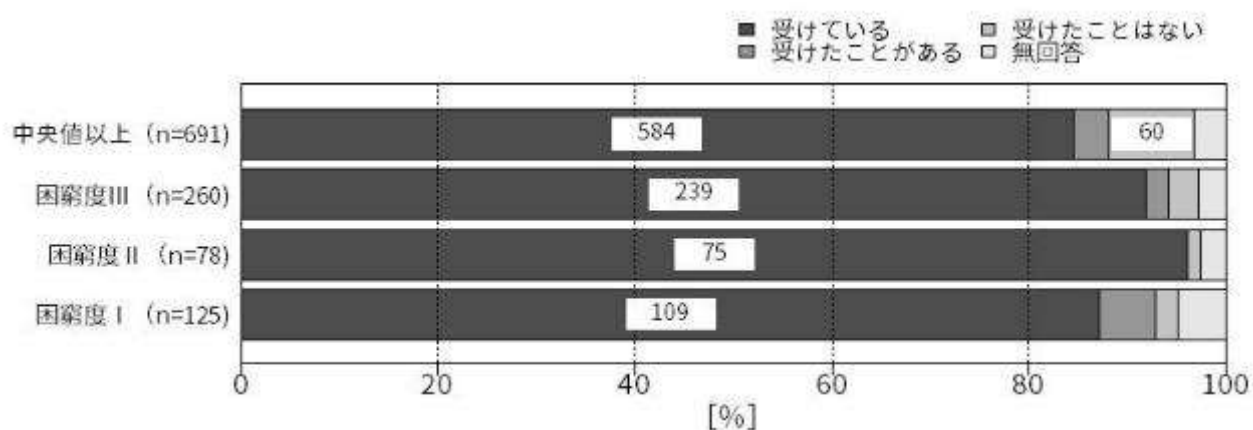
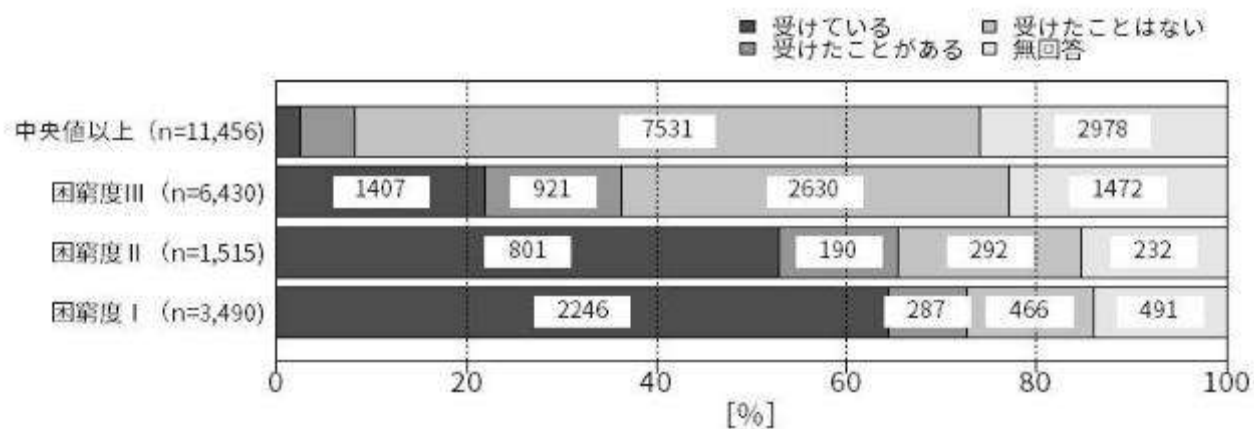


図 125. 困窮度別に見た、児童手当

児童手当は多くの世帯が受給していた。困窮度別に児童手当の受給率を見ると、困窮度Ⅰ～Ⅲ群において、とりわけ多くの世帯（87.2%～96.2%）が「受けている」に回答した。

困窮度別に見た、就学援助費（保護者票 問 30(3)②)

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

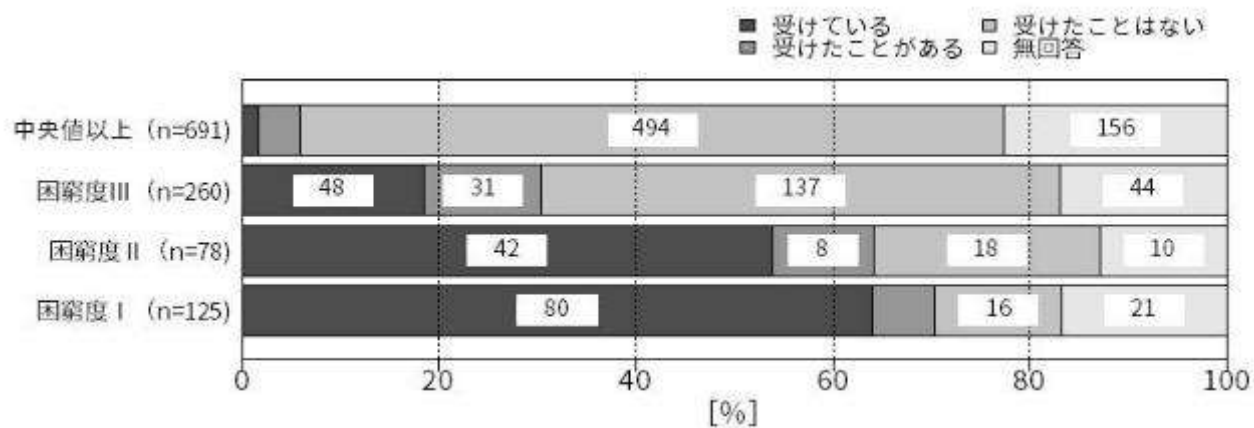
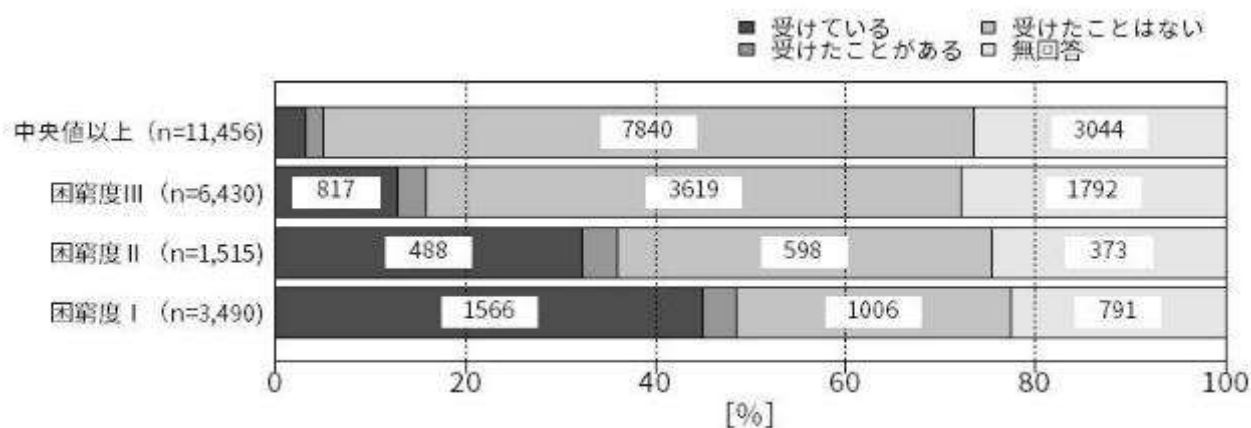


図 126. 困窮度別に見た、就学援助費

困窮度別に就学援助費の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当（保護者票 問 30(3)③）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

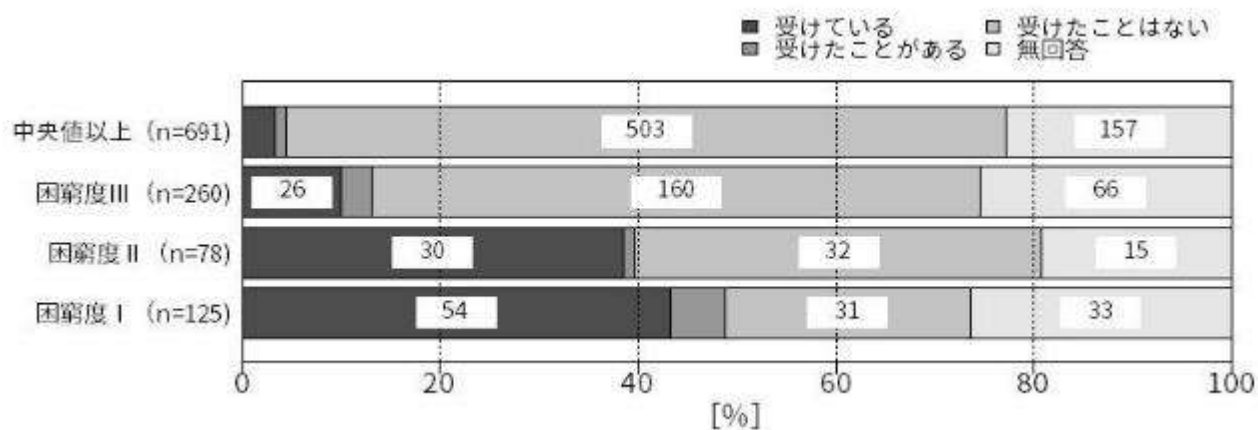


図 127. 困窮度別に見た、児童扶養手当

困窮度別に児童扶養手当の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。さらに、以下に、ひとり親世帯のなかでの児童扶養手当の受給状況を示す。困窮度Ⅰでも「受けたことがない」が 8.3%を占め、無回答が 15.3%存在する。

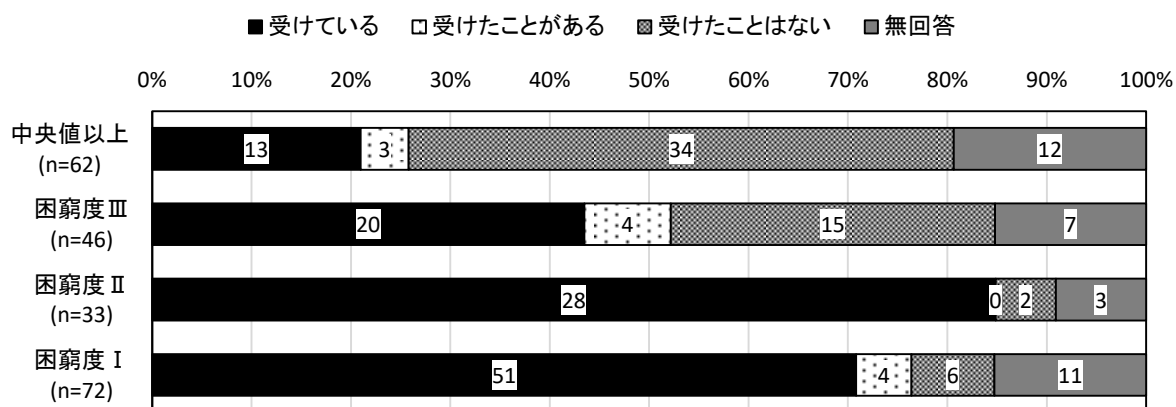
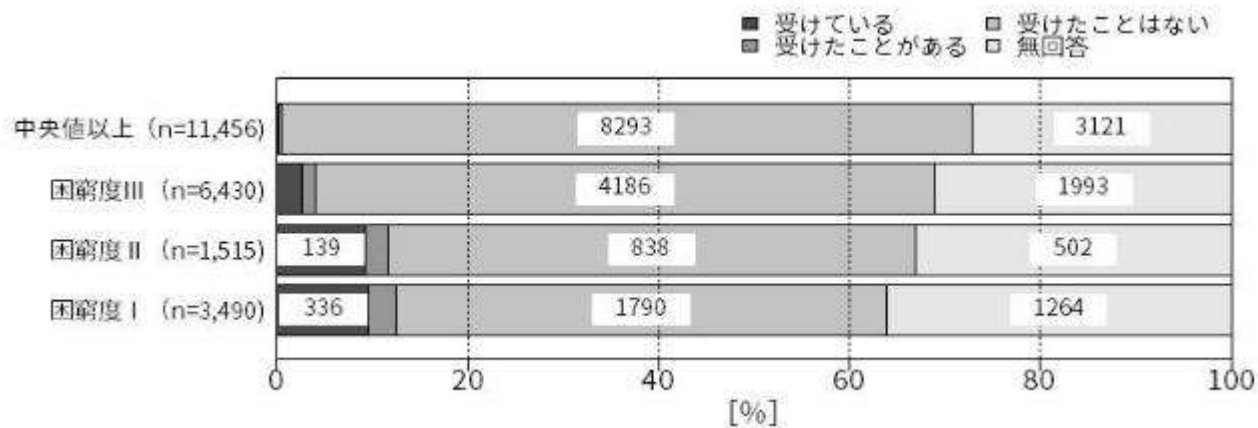


図 127 の補足図. 困窮度別に見た、児童扶養手当（ひとり親）

困窮度別に見た、生活保護（保護者票 問 30(3)⑤)

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

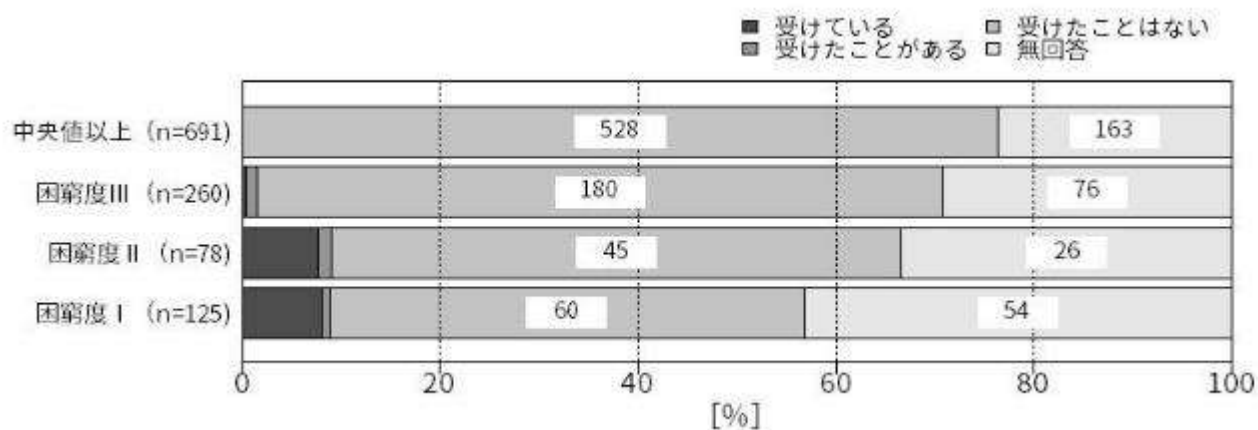


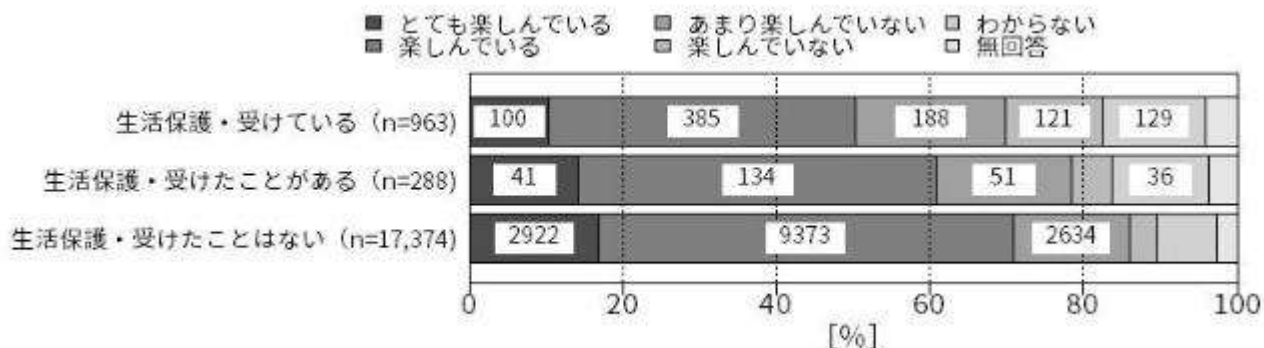
図 128. 困窮度別に見た、生活保護

困窮度別に生活保護の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は8%であった。困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている傾向にあった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

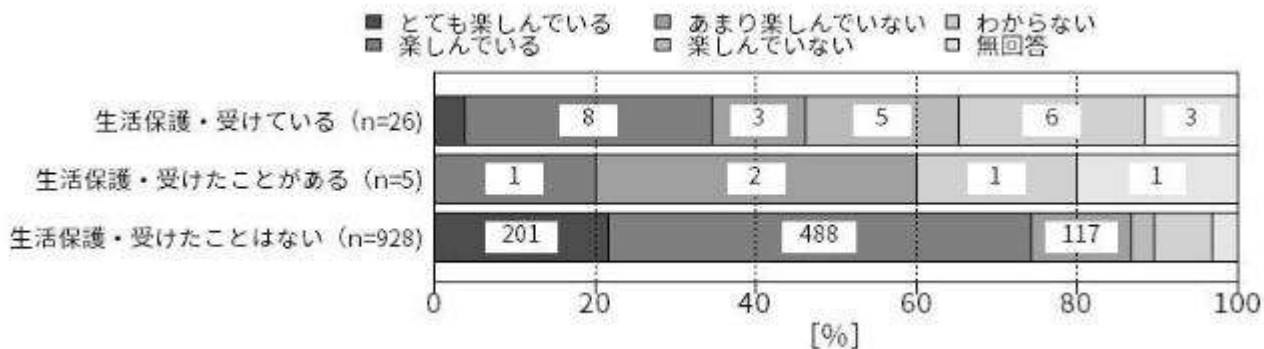


図 129. 生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

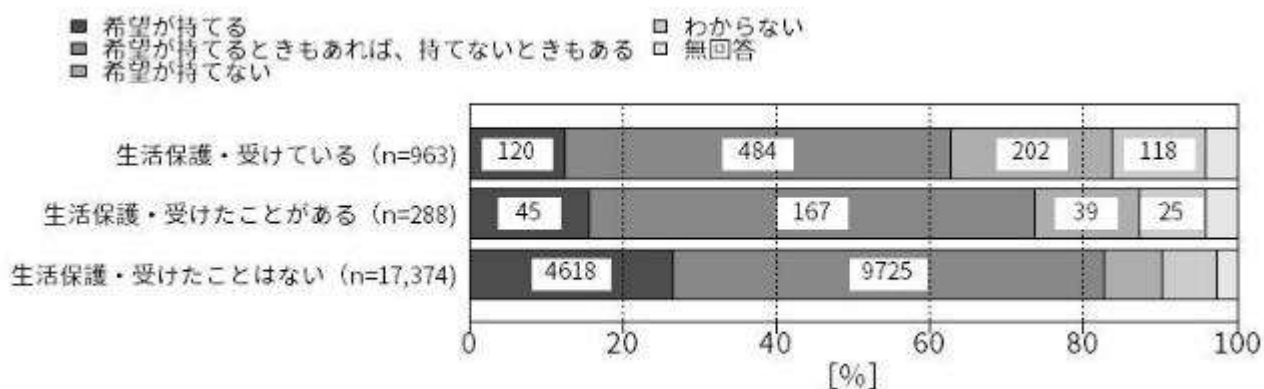
生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、生活を「楽しんでいない」という回答が 19.2%、生活保護を受けなかった世帯では 2.8%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

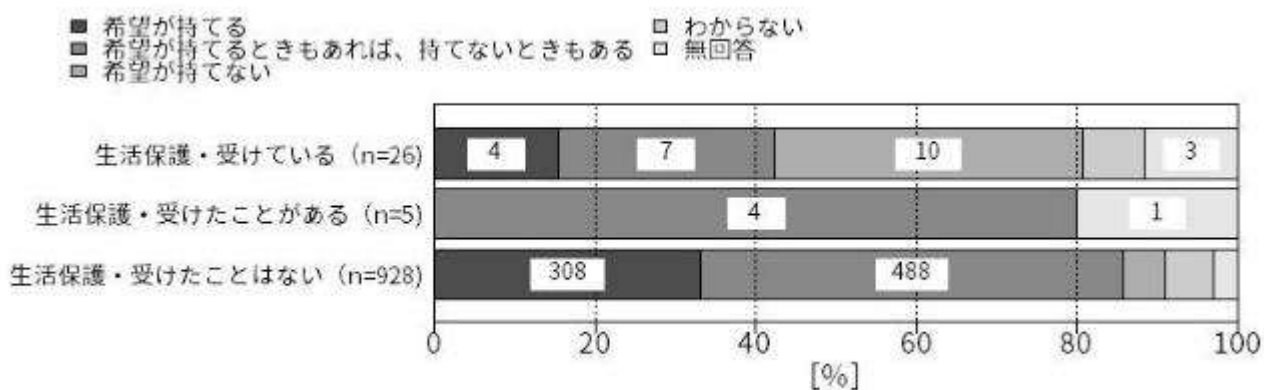


図 130. 生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

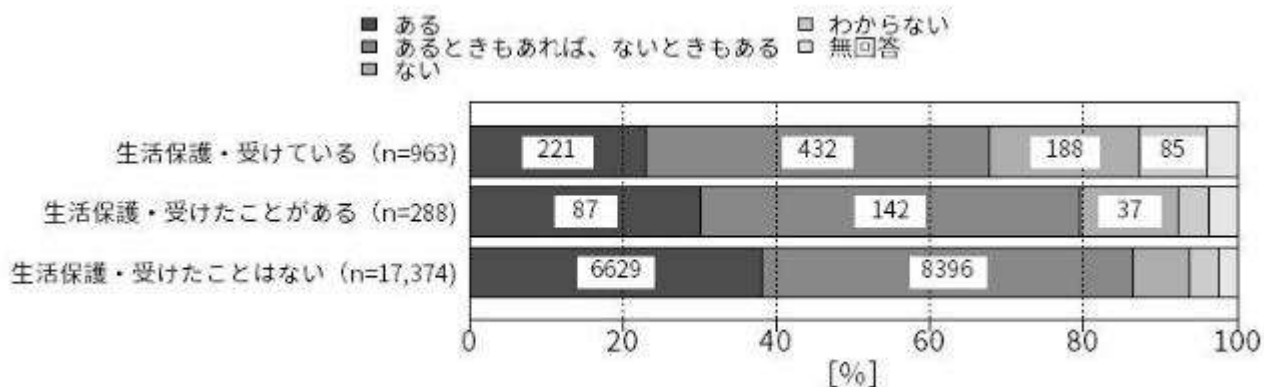
生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、将来に対して「希望が持てない」という回答が 38.5%、生活保護を受けたことがない世帯では 5.3%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

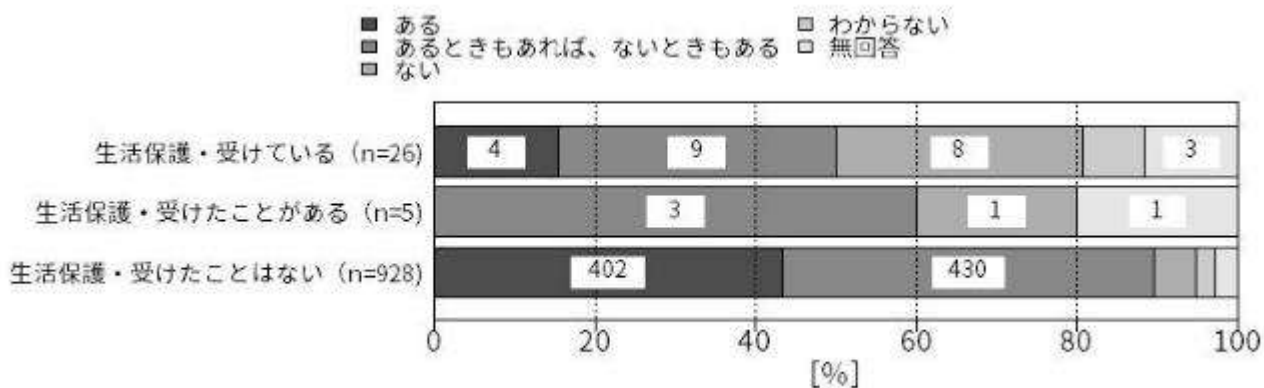


図 131. 生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

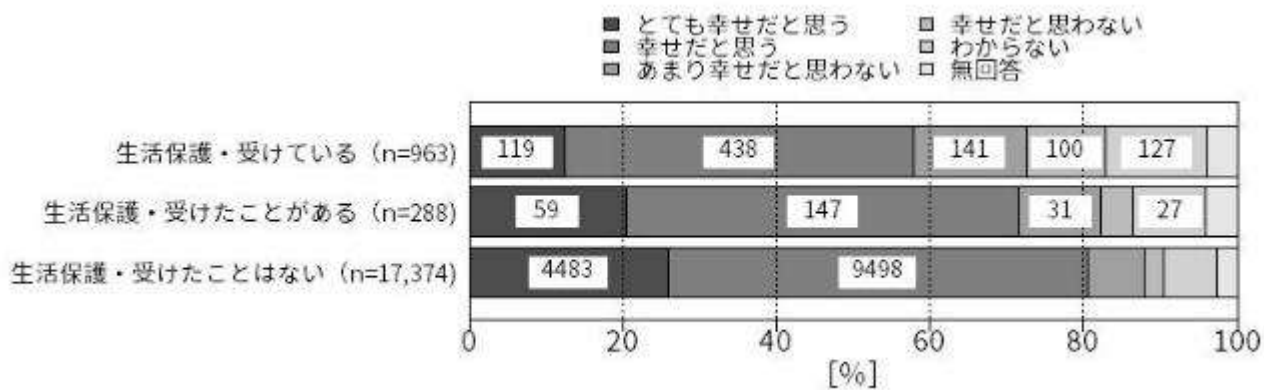
生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、ストレスを発散できるものが「ない」という回答が 30.8%、生活保護を受けたことがない世帯では 5.2%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

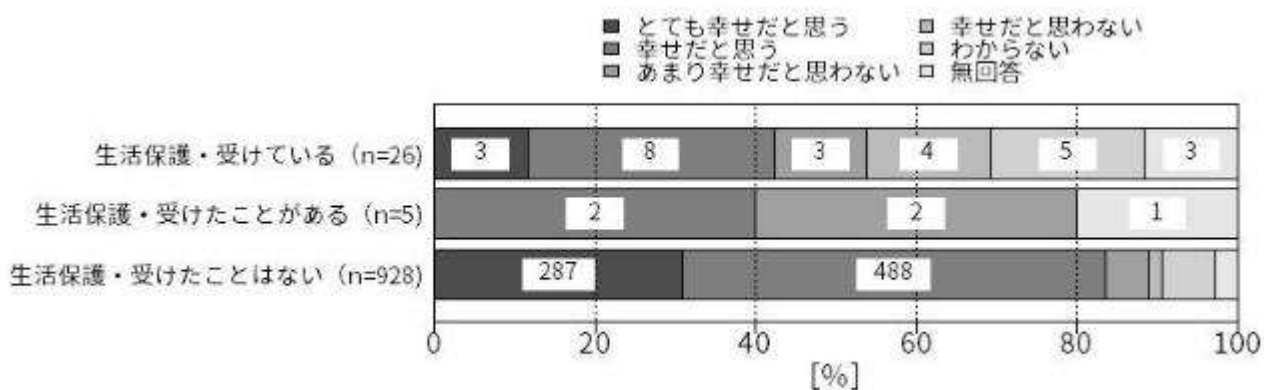
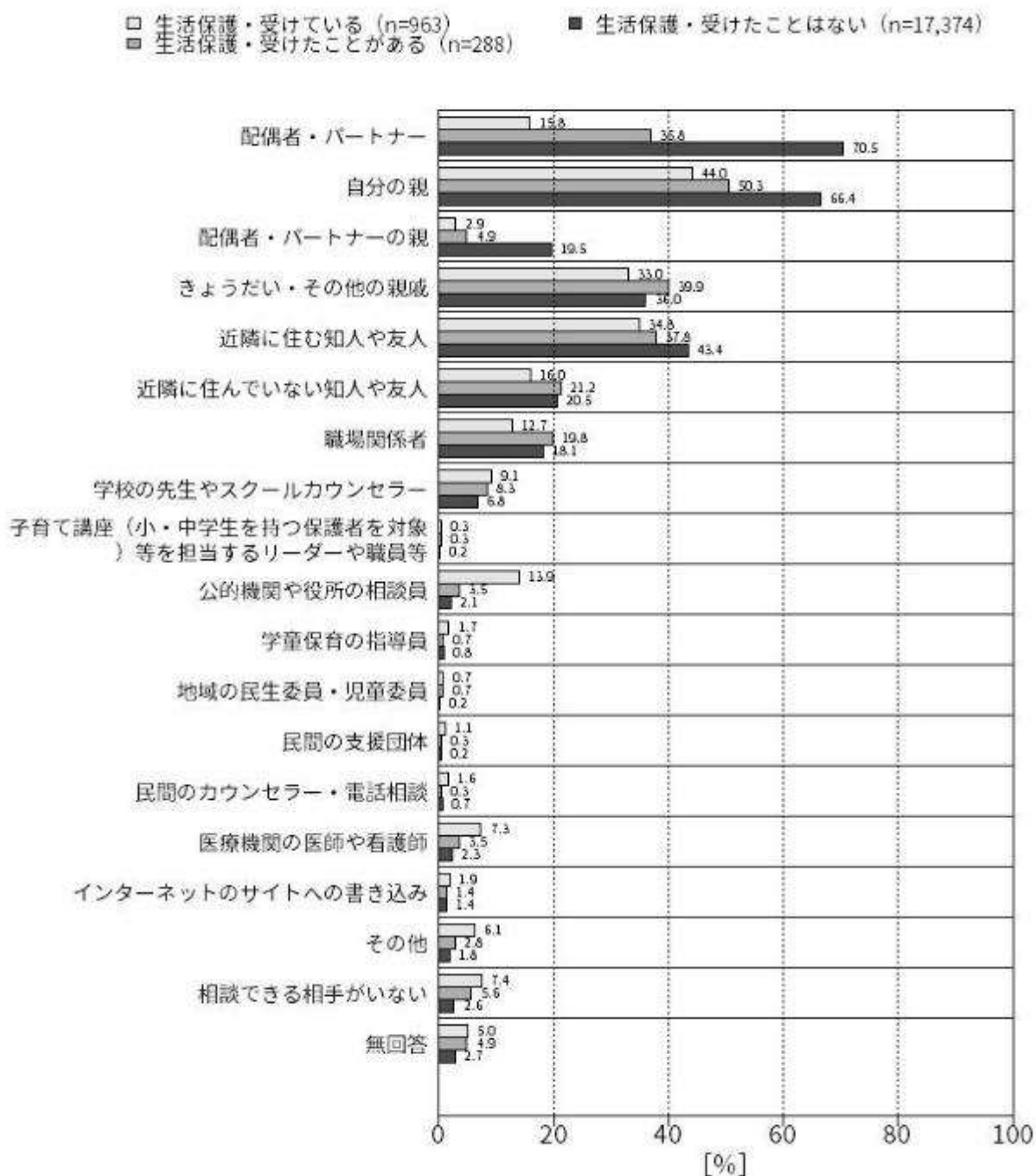


図 132. 生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、「幸せだと思わない」という回答が 15.4%、生活保護を受けていない世帯では 1.6%であった。

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

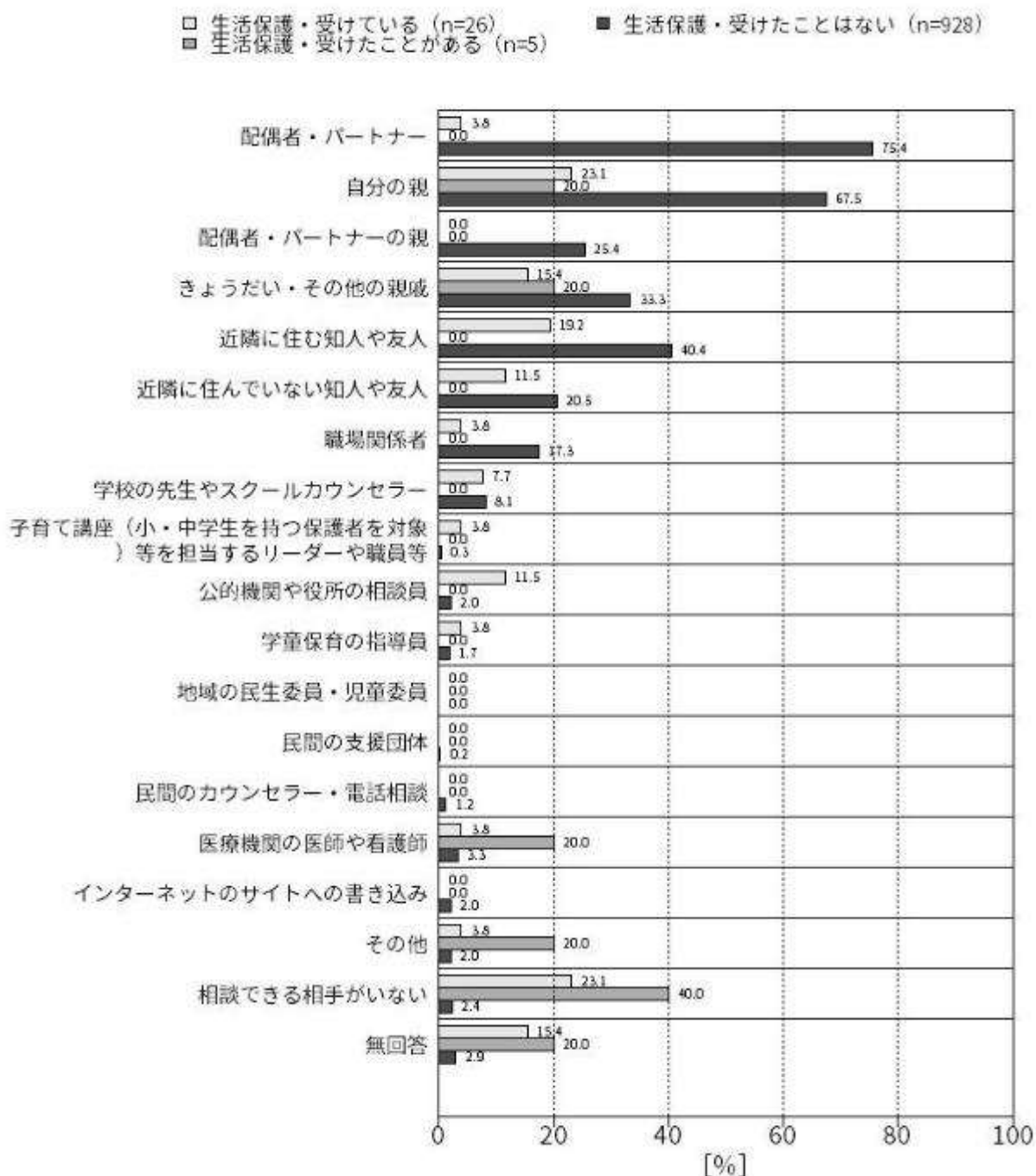


図 133. 生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため、この群と比較して傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、「相談できる相手がいない」という回答が 23.1%、生活保護を受けたことがない世帯では 2.4%であった。